

令和5年度 第9回 政策調整会議 会議録

-
- ◆開催日時：令和6年3月21日（木） 9：57～10：31
 - ◆開催場所：第1委員会室
 - ◆出席委員：波積副市長、大下教育長、西川総合政策部長、残総務部長、寺本財務部長
 - ◆説明者：田中企画課長、中井主幹(スマートシティ推進担当)
-

◆審議事項

岸和田市スマートシティ構想の策定について・・・・・・・・・・・・・・・・総合政策部企画課⇒承認

◆審議概要

◎付議依頼書等に基づき説明

◎説明後、質疑応答

〈波積副市長〉スマート化やDX化について、構想におけるめざす姿が理想だが、一方で、スマート化、DX化はあくまで手段であり、それにより、市民生活が便利に、職員がより楽になることが目的である。それに合わせて我々の仕事を変えていかなければいけない。私が仕事を始めたころはパソコンが無い、もしくは課に1台で、メールも全くないという時代だった。そのためコミュニケーションをとるためには人と人が直接会うことが前提だった。メールが導入されたとき、メールを送ったうえで不安なのでメールが来たかどうかの確認連絡をしていた。古い仕事の残滓をいかになくすか、スマート化で便利になった分、これまでの無駄な作業をいかに削るかが重要。これらを削らないと、スマート化した結果却って仕事量が増えることになる。業務のあり方を抜本的に変えないと全くスマート化はしないため、やらなくて良い作業を見つけ、省き、本質的な意味でのスマート化をぜひ一緒に進めたい。庁内にも周知していただきたい。

〈教 育 長〉1点目。スマートシティでなぜ社会の諸課題が解決するのかというところの説き起こしがされていないと感じる。スマートシティをよしとすることを前提に、社会の諸課題の解決につながるという結論だけを書いてあり、中の論理が飛んでいるように思う。そこがわかりにくく、なかなか読み取れない。

2点目。14ページで「スマートシティで解決すべき5つの重点分野」があげられている。リーディングプロジェクトを選定し進めていくとし、17ページから19ページにかけて記載があるが、諸課題についてこの3つのリーディングプロジェクトで解決していけるものなのか。さらにはこのリーディングプロジェクトと23ページ以降に記載しているアクションプランの案があるが、このリーディングプロジェクトとアクションプランとの関わりがどうなのかが読み取りにくい。

3点目。言葉がわかりにくい。例えば「社会実装」や「発生集中量」など業界の専門用語をわざわざ使わなくてもいいのではないか。「具体化する」とか「交通量が多い」とか市民がわかりやすい平易な表現に改めることができるのではないか。また、「レジリエント」のようにあまり一般化していない横文字が使われており、この言葉については巻末での注釈もない。このあたりは市民に見ていただくときにわかりにくいと

感じた。

〈スマートシティ推進担当主幹〉 1点目について。背景の部分で、昨今の社会状況の中で複雑化・多様化する課題の解決策として、データの利活用や先端技術の利用があるのではという大きな方向性を示している。一方で、スマートシティによって全てが解決するという誤解を招かないようにすること、また、技術中心ではなく人間中心で、人間の幸福度が上がっていくための正しい取組になっているかを見ていく必要があることも大きな方向性と考えている。

〈教 育 長〉 例えば、デジタルや ICT の進展によって、情報の質・量が格段に増えることにより1人の人間がとれる情報が必然的に増加し質も高まることで、それぞれの人間がそれぞれの課題に対する解をいくつも用意できる、またそれを広く情報共有することで多くの人と最適解を見出ししていくことができる。その結果、社会で起きている新しい課題への対応力がつく、といったような説き起こしが不足しているような気がする。スマートシティの必要性や効用を解説している部分はあるか。

〈スマートシティ推進担当主幹〉 基本理念や基本原則の中に要素として入っている。例えばデータの利活用は様々なところに入っており、特にリーディングプロジェクトにおいて、データを使って新しいサービスを創り出す、課題解決をしていくという部分であるとか、7ページの「スマートシティがめざす将来像」の「めざすうえで必要な視点」の中で、「岸和田市におけるスマートシティ推進の目的に基づき、組織や分野を超えて有機的にアイデアを組み合わせる考え方を原則」とすることを記載している。

基本的に、国のスマートシティガイドブックやリファレンスアーキテクチャーをベースに考えている。

〈波積副市長〉 補足で説明すると、スマートシティや Society5.0 などは、前提条件が書かれていないところがある。そのため、市民に伝える際には解説が必要だと感じた。

Society5.0 の提唱者がいうには、2つのことをめざしている。

1つは、科学技術が進んだことによりデジタル空間が現実空間にかなり近づき、現実空間に寄り添ったシミュレーションができるようになったことで、時間が大幅に短縮できること。リアル空間で行っていた実験をデジタル空間で何回も実施することによって、リアル空間での実験数を少なくできるというメリットがある。農業を例にすると、お米の収穫は1年に1回なので、リアル空間では20年研究しても20回しかテストできない。それをデジタル空間でシミュレーションすることで、20年かかるものを1年や2年で終わらせ、研究開発を加速度的に進めようという考え方がある。スマート化により、実際にやらなくても、スーパーコンピューターなどでシミュレーションを繰り返すことでリアル空間でのテストをかなり厳選でき、結果的に時間が短縮できる。

もう1つはビッグデータ解析。ビッグデータ解析の意義は、人間が直観的でわからないことがわかるということ。私が知っている有名な例が、ショッピングセンターの中でどこに店員が立つとお客さんが1番物を買うかというもの。それを解析すると、人間が予想した場所とは違う場所に立つ方が、お客さんが物を買ってくれることがわかるようになる。人間の直感的なものとはずれたものを発見できることがビッグデータ解析のいいところ。

そういうことを含め、この新しい科学技術に従っているような実験をすると今までより

手間やコスト、時間が短縮でき、より生活が便利になるという部分がほぼカットされている。カットされていると市民もスマート化でできること、できるようになる背景がわからないと思う。しかし、そこまで書き込めないのが、市民に説明する際には、前提条件で科学技術の発展でできるようになることの事例を、1例でも2例でも入れるとわかりやすいと思う。この構想そのものは問題ないので、そういう工夫をすることを前提としたうえで認めるということでしょうか。

〈スマートシティ推進担当主幹〉 教育長の2点目のリーディングプロジェクトですべて重点分野が解決できるのかというご指摘については、重点分野を5つ設定しているが、それを3つの方向性「くらす」「そだつ・かがやく」「ささえる」に整理したうえで、リーディングプロジェクトを定めているので、部分的になっている。併せて、アクションプランとリーディングプロジェクトの関係性については、アクションプランのコンセプトの中に要素が入っている。

3点目の言葉のわかりにくさについては、できるだけわかりやすくするよう進めてきた。「レジリエント」については、前段の基本原則の中に、レジリエントが強靱性であることの説明を入れているため、用語集からは割愛している。

〈教 育 長〉 パブリックコメントの6番目の意見に対する答えが、答えになっていないように感じる。11月の政策調整会議でも、スマートシティは光の部分ばかりが強調されるが、影の部分もあり、例えばステレオタイプが助長されるといった話をしたが、この意見でも影の部分をおっしゃっている。あまりICTやデジタルが普及すると、情報ばかりのやりとりで人が会う機会がなくなり、人間的な関係性・つながりが薄れるのではないか、という意見に対する答えになっているか。

〈スマートシティ推進担当主幹〉 この文章の捉え方として、後段の「拙速に事を進めるのではなく、その効果などを十分に検証（様々な意見を聞き）し、じっくり検討してください。」という部分に注目した回答としており、取組の内容や成果、効果など、を全面的に出して進めていく、そして効果の有無をきちんと見たうえで進め、拙速には進めないという視点で回答している。一方、前段の部分の直接的な回答ではないが、オンラインの中でも人と人との交わりを作っていけるような仕組みを検討していきたいということで、今回市民参画の機会という部分を追加している。

〈教 育 長〉 逆にデジタル化によって新たな出会いを作ったり、関係性が広まったりする可能性もあることを言ってもいいように感じた。

〈財 務 部 長〉 スマートシティというのは、やるかやらないかではなく、やらなければいけない1択であり、どういう風にするか、どのようなタイミングでどう進めていくか。きちんとまとまった資料だが、素人の目線から見たときに整いすぎている印象がある。根本的に「スマートシティ」という言葉が非常にわかりづらい。7ページの「心豊かな生活」、「健康増進」、「多様な学習機会」、「安全への備え」など人々の生活が便利に、良くなっていくことが書かれているが、スマートシティとそれらの繋がりを市民が具体的にイメージできるかが非常に疑問。今回の資料の中で、用語集を入れていただいているが、用語集の中の「スマートシティ」の欄には、「ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメント(計画、整備、管理・運営等)の高度化により、都市や地域の抱える諸課題の解決を行い、また新たな価値を創出し続ける、持続可能な都市や地域であり、Society 5.0の先行的な実現の場。」とある。この説明で市民はきっとわからないと

思う。『岸和田市スマートシティ構想』というタイトルに、すごくベタな言葉で一般的にイメージがわかりやすいサブタイトルをつけるといったことを検討いただきたい。あまりにも自分たちの生活とスマートシティとの繋がりがわかりにくい。用語集を読んでもわかりづらいところもあるので、うまく書いていただけたらと思うし、この構想を概要版やホームページ、広報等で市民に周知するとき、わかりやすさを重視してもらいたい。これは行政だけで進めていくのではなく、市民がそれに乗っていくという土壌がないと絵に描いた餅になってしまう。実効性を求めるのであれば、市民にわかってもらいやすい仕掛け、工夫をしてもらいたい。

〈スマートシティ推進担当主幹〉 副市長や教育長にいただいた内容も含め、説明の時にはもっとわかりやすい事例を含め、説明していきたい。用語集については、正確性とわかりやすさを天秤にかけたときに、正確性を求めたところもあり、ご意見をいただいたのだと思う。今後それをかみ砕いた形でご説明できるように進めたい。

〈総務部長〉 ロードマップを3つ挙げていただけており、概ねそのとおりだと思うが、1つ目の「移動がスムーズなまちづくり」において、「シェアリングサービス」だけ具体的な言葉で出てくるので違和感がある。例でも「自動運転など、子どもから高齢者まで、安全に行きたいところに移動でき、交通渋滞や事故が減っている」とありながら、シェアリングサービスでこの安全性は担保できるのかという疑問がある。タクシーの運転手は基本免許制なので、それは一定担保されているが、ギグワーカーが何か担保があるのか。移動はスムーズだが安全性と両立させる必要があるのではと感じた。

〈スマートシティ推進担当主幹〉 シェアリングサービスについても、法に基づいた取組というところはこの前段としてあると思っている。一方でシェアリングということで交通量自体が減っていくという部分も考え方としてあると思う。そういったところは量から見た安全性というところに繋がっていく1つの仕組みではあると思う。

〈総合政策部長〉 実際に進めていく中で前段としてこういうのもあると表現として足していくことはできる。どうしても新しい取組なので馴染みも薄く、わかりにくいことも多いと思うので、今後進めていくにあたっては具体例がわかり、実感を伴うような進め方をしていく。

〈総合政策部長〉 本案件について、原案のとおり政策決定会議に諮ることとしてよいか。

【異議なし】

⇒本件、原案のとおり承認し、政策決定会議に付議する。

令和6年3月 11 日

政策調整会議付議依頼書

依頼者名 総合政策部長

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

記

付議事項名	岸和田市スマートシティ構想の策定について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、簡潔に記載すること。)	第 7 回政策決定会議にて承認いただきました「岸和田市スマートシティ構想素案」のパブリックコメントを先般実施いたしました。ご意見などを踏まえ、構想案として取りまとめ、岸和田市スマートシティ構想として策定することにつき、付議するものです。
説明者	田中 企画課長 中井 主幹
付議事項の概要	様式別紙に記載(必ず別紙様式をご提出ください。)

別紙

付議会議	令和5年度 第9回会議
付議事項	岸和田市スマートシティ構想の策定について

★取組の目的

対象	市民
どのような状態を目指す	ICTなどの先端技術を活用して、都市課題を解決し、持続可能な都市をめざすスマートシティの推進に向けて、岸和田市スマートシティ構想を策定する。

★総合計画上の位置付け

6020202	基本目標	みんなで作る持続可能なまち
↑ここにコードを入力 (コードは「将来ビジョン・岸和田(体系)」シートを参照)	個別目標	持続可能で信頼される行政になっている
	個別目標の方向性	② 適正で効率的かつ効果的な業務の実施を進める
	行政の役割	広域的視点をもって、時代に応じた施策を積極的に推進する

★現状と課題

国では、IoT、AI、ビッグデータ等の先端技術を利用し、都市課題の解決や都市機能の効率化に活かそうとする「スマートシティ」の推進を進めており、本市においても、将来ビジョン・岸和田において、分野横断的にICT・先端技術を活用して将来像の実現を図ることとしている。現在、大阪府スマートシティパートナーズフォーラム(OSPF)に参加し、個別の取組を進めているが、今後、分野横断的かつ計画的に推進するため、スマートシティの方向性を示すものとして、岸和田市スマートシティ構想を策定する必要がある。

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項	決算(見込額)		予算額	見込額					
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
岸和田市スマートシティ構想策定支援業務委託			13,200						
岸和田市スマートシティ協議会運営支援及び実証委託				5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	
学識アドバイザー報償費			237	237	237	237	237	237	
財源内訳	国費								
	府費								
	起債								
	一般財源			13,437	5,237	5,237	5,237	5,237	
	その他								
事業費			計	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
			26,185	5,237	5,237	5,237	5,237	5,237	

★当該事項に関連する人員増の必要性*

人員増の必要性	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
(有) 無	1	0	0	0	0

★取組の効果を表す指標

指標名	単位	R3年度	R4年度	R5年度	目標値				
					R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
① 協議会参加団体数	団体			0	3	6	10		
② 実装サービス数	件			0	0	1	2		

※事業費及び人員を確約するものではない。